

全国遺跡報告総覧の国際発信

全国遺跡報告総覧は、海外からみると日本全国の発掘調査報告書を体系的に活用するための、唯一無二のデータベースといえます。この点から、より一層の国際発信をはかるために、2017年2月24日と27日に、英国のセインズベリー日本藝術研究所とヨーク大学考古学情報サービスにて、考古学情報の国際発信に関するセミナーを開催しました。セミナーは、全国遺跡報告総覧の紹介と発展の可能性を議論の軸にし、考古学情報の国際発信において先行している先方機関との相互の協力関係を探る観点で進めました。セインズベリー日本藝術研究所では、様々なデータベース作成や、普及事業への貢献、大学教育での活用等様々な連携事業を議論しました。また日本考古学を研究している学生の多くは、英語による検索に非常に大きな関心を示していました。普遍的な価値をもつ日本考古学の生データへの需要は非常に強いことを確認しました。

ヨーク大学考古学情報サービスは、英国の発掘調査の情報を集積し公開しています。またEU全体の考古学情報の連携にも大きな役割を果たしています。セミナーでは、考古学情報を国際的に共有し連携するための具体的な方法について本格的に議論しました。また全国遺跡報告総覧の年間ダウンロード件数が、運用からわずか1年半ですでにEU全体の考古学情報統合システムの20倍以上に達し、世界的にみても突出した利用実績である点も大きな驚きを与えたようです。ヨーロッパを中心に、世界の考古学情報の連携が進んでいますが、全国遺跡報告総覧を今後、世界の考古学情報と連携させるよう大変に強く要望されました。全国遺跡報告総覧は、国内の行政、学界のみならず、世界の考古学界全体にとって、不可欠な存在となり得ることを改めて認識しました。

(都城発掘調査部 国武 貞克)



ヨーク大学考古学情報サービス所長ジュリアン・リチャード教授(中央右)とともに

奈文研新オリジナルグッズが誕生！

昨年度に製作・販売して好評のオリジナルグッズをご紹介します。これらの製作にあたっては、飛鳥の歴史や文化に親しみを感じてもらい、手に取った人の新たな視点や気づきのきっかけになるようなグッズに仕上げました。

グッズには、奈良文化財研究所の独自性を出せるものとして、軒丸瓦、土器の実測図、古墳壁画をモチーフに使用しました。「瓦てぬぐい」は、瓦の研究員とともにデザインをおこない、それぞれの瓦の特徴を再現しました。「土器てぬぐい」は、発掘調査の報告書のページをイメージして製作しました。実測図の線の緻密さや、美しく配置された土器には、研究員のこだわりが反映されています。報告書や土器の実測図そのものは、一般の人にとって馴染みがないかもしれませんが、それゆえのおもしろさもあり、土器の研究を知るきっかけになればと思い、デザインに採用しました。

「高松塚古墳スカート柄ブックカバー」は、高松塚古墳の西壁に描かれた女子群像のスカートをアレンジしました。実際の壁画には塗り忘れの部分があるので、そこは白いままにして再現しています。「キトラ古墳天文図柄ブックカバー」は、手に取った人が、古代の人が見た星空に思いを馳せてもらえるよう、実物のキトラ古墳の天井に描かれた壁画をもとに夜空をイメージして色を加工しました。

今回のグッズはSNSでも大きな反響があり、新聞各紙にも取り上げていただけました。このような取組を続けることで、文化財がより身近な存在となり、実物を見に足を運んでいただけたら嬉しいです。

(飛鳥資料館 小沼 美結)



今回製作したグッズ